

3 環境保全施策支援事業

(1) 環境技術者の研修

ア 自治体職員協力交流研修員の受入

平成8年度に総務省と(財)自治体国際化協会(CLAIR)が共同で支援する「自治体職員協力交流事業」が創設され、海外の地方自治体の職員を日本の地方自治体が受入れ、その行政ノウハウ、技術等を研修するとともに地方自治体の国際化施策への協力を通じて地域の国際化を推進することを目的として実施されている。富山県では、国際協力を推進するため、この事業を積極的に活用しており、当センターはその研修員の受入業務を担当している。

(ア) 研修員

大韓民国江原道江陵市上下水道事業所水道施設課 職員 張 恩慶

(イ) 研修期間

2004年7月16日～24日

(ウ) 研修内容

a 国際環境協力について

- ・NEAR環境分科委員会の開催について
- ・NEAR環境分科委員会への参加

イ 江原道環境技術研修員の受入

富山県と江原道との連携協力を図るため、江原道環境担当職員を富山県に受け入れ、環境の専門分野における短期研修を実施した。

(ア) 研修員

韓国江原道環境観光文化局
きれいな水保全課職員 柳 陽燮
環境政策課職員 全 王杓

(イ) 研修期間

2004年11月15日～19日

(ウ) 研修内容

a 廃棄物管理について

- ・廃棄物関係法規の概要
- ・廃棄物減量化・リサイクル施策 等

b 公害排出事業者管理について

- ・公害関係法規の概要
- ・届出等管理システムの概要
- ・指導・取締り・環境監視調査の概要 等

c その他

- ・環境関係計画の概要
- ・国際環境協力の概要
- ・環境関連施設の視察

ウ 国際協力事業団研修員の受け入れ

富山県は、友好提携先である中国遼寧省と1998年度から遼寧省の水質改善調査の共同研究を行っている。その一環として、当センターでは1999年度から国際協力事業団(JICA)の研修員受け入れ事業の制度を活用し、毎年、遼寧省の研究職員2名の研修を受け入れている。これは、水質調査を行う際の研究職員の技術向上及び調査研究に係わる測定技術の向上を図ることを目的として、約1ヶ月半にわたり富山県環境科学センターを中心に研修を実施するものである。

2004年度は、次のとおり研修を実施した。

(ア) 研修員

遼寧省環境監測センター
助理工程師 関 屏
遼寧省環境監測センター
助理工程師 劉 洋

(イ) 研修期間

2004年10月19日～12月2日

(ウ) 研修内容

a 技術研修

- ・海水資料分析と前処理技術
- ・酸性雨モニタリング技術

b 県外研修

- ・独立行政法人国立環境研究所
- ・東京都環境科学研究所

(2) 普及啓発事業

(財)環日本海環境協力センターの活動状況を次の方法により発信し、提供した。

ア 機関誌「ニュースレター NPEC」の発行

- ・No.8 2004年12月発行

イ 「年報」の発行

- ・2004年版 2005年3月発行

ウ ホームページ(<http://www.npec.or.jp>)による情報の提供

- ・掲載内容の随時更新

エ 北東アジア地域環境用語辞書の公開

北東アジア地域(日本、中国、韓国、モンゴル、ロシア)の諸国間において、環境情報の交換・共有化を促進するため、ホームページで開設している5か国語(日・英・中・韓・露語)の環境用語辞書システムの運用・管理を行うとともに、内容を充実した。

オ エコライフ・フェア 2004 への出展・参加

環境省、環境再生保全機構等が主催するエコライフ・フェア 2004 に出展し、当財団の紹介、NOWPAP 事業の紹介等を実施した。

- (ア) 開催日 2004年6月5日～6日
- (イ) 開催場所 東京都内
- (ウ) 出展内容 当財団の紹介、北西太平洋行動計画 (NOWPAP) 事業の紹介、海辺の漂着物調査の内容紹介



(3) 北東アジア青少年環境シンポジウムの開催

次代を担う青少年の環日本海地域を視野に入れた環境意識の涵養を図るとともに、日本、中国、韓国及びロシアの青少年がシンポジウムの開催等を通じて交流を図り、環境保全活動や環境教育等についての共通理解及び共同活動を促進することを目的として開催した。

- (ア) 開催日 2004年8月21日～22日
- (イ) 場所 韓国 忠清南道 保寧(ポリョン)市
- (ウ) 主催 富山県、(財)環日本海環境協力センター
忠清南道、環境保全協会(大田忠南支会)
共催 環境省、韓国環境部
- (エ) テーマ 水環境保全
- (オ) 参加者 (4か国 8自治体の中学生 37名)
 - ・日本：9名(富山県7名、新潟県1名、石川県1名)
 - ・韓国：22名(忠清南道20名、江原道2名)
 - ・中国：4名(山東省2名、江蘇省2名)
 - ・ロシア：2名(沿海地方2名)
- (カ) 概要
 - a 挨拶 富山県、忠清南道
 - b 基調講演「北東アジア地域の環境の現状と課題」韓国公州映像情報大学 李進 学長
 - c 活動発表 (9グループ)
 - ・「地下水を利用した生物の保護活動」(富山県高岡市立中田中学校)
 - ・「私たちの清掃ボランティア活動」(富山県高岡市立伏木中学校)
 - ・「ホテル生息地『牛の首』水質調査」(新潟県越路町立塚山中学校)
 - ・「干潟の価値と保存方法の調査」(忠清南道保寧市大川中学校)
 - ・「水の節約の方案」(忠清南道保寧市大川中学校)
 - ・「水質環境保存及び対策」(忠清南道保寧市大川中学校)
 - ・「山東省における黄海沿岸海辺の漂着物調査」(山東省煙台市第二中学校)
 - ・「水資源保護—我々の負うべき責任」(江蘇省啓東市呂四港鎮鶴城初等中学校)
 - ・「沿海地方におけるハスの花の保全」(沿海地方アルセニエフ市立教育機関第1総合学校)
 - d 水質簡易測定法の実習 (透視度、COD パックテスト、pH パックテスト)
 - e 共同野外環境保全活動 (海岸漂着物調査、清掃活動)
 - f 環境学習
 - ・「私たちの水環境」(コーディネーター：富山県立大学 川上 智則 助教授)
 - ・環境家計簿

g 北東アジア青少年環境シンポジウム宣言の採
択

(キ) 主な内容

a 水環境保全に係る活動発表

9グループ（日本3グループ、韓国3グループ、中国2グループ、ロシア1グループ）が、それぞれ実施している水環境保全に係る活動について発表し、意見交換を行った。

b 共同野外環境保全活動の実施

保寧（ポリョン）市大川海水浴場において、共同で海岸漂着物調査及び海岸清掃活動を実施した。

c 北東アジア青少年環境シンポジウム宣言の採
択

参加者がシンポジウム宣言を採択し、自然と共生する社会や循環型の社会を目指して、北東アジア地域に住む全ての青少年に環境保全のための取組に積極的に参加することを呼びかけた。



共同野外環境保全活動



活動発表



水質簡易測定法の実習